

2) 耕種的防除法

(1) 育苗枯細菌病に対するプール育苗法の発病抑制効果

- イ) プール育苗法により、加温・無加温出芽ともに育苗枯細菌病の発病が抑制される(表-1～3)。
- ロ) その際、湛水する時期は出芽直後が効果が安定している(表-2、3)。
- ハ) プールの水管理を間断灌水にすると効果が低下する(表-3)。

表-1 育苗方法の違いによる発病の比較(平成7年 無加温出芽) 調査

育苗方法	苗数 (本)	軽症 (%)	重症 (%)	枯死 (%)	発病苗率 (%)
慣行育苗	300	37.5	38.0	4.0	80.4
プール育苗	300	0.0	0.0	0.0	0.0

表-2 プールに移行する時期の違いによる発病の比較(平成8年 加温出芽)

試験区	黄化苗率 (%)	萎凋枯死苗率 (%)	発病苗率 (%)
慣行管理	1.3	31.2	32.5
出芽直後プール	0	3.9	3.9
出芽 2 日後→プール	0.1	3.9	4
出芽 6 日後→プール	1	5.1	6.1
出芽 13 日後→プール	1	4.2	5.2

表-3 プールに移行する時期とプールの水管理の違いによる発病の比較(平成8年 加温出芽)

試験区	調査苗数 (本)	軽症 (%)	重症 (%)	枯死 (%)	発病苗率 (%)	発病度	防除価	草丈 (cm)
慣行管理	214	0.9	98.1	99.1	99.1	98.7	—	9.5
出芽直後プール	211	6.6	8.1	8.1	8.1	5.4	94.5	15.9
出芽直後プール 断水	217	20.7	70.5	70.5	70.5	62.2	36.9	16.9
出芽 2 日後→プール	236	28.0	79.7	79.7	79.7	68.5	30.6	16.9
出芽 2 日後→プール 断水	231	7.4	93.5	93.5	93.5	90.6	8.2	13.3
出芽 9 日後→プール	195	2.6	96.4	96.4	96.4	95.4	3.3	9.5
出芽 9 日後→プール 断水	200	0.5	98.0	98.0	98.0	97.8	0.8	8.3

*1 試験は人工接種糸を使用

*2 プールの断水はプールの底が乾燥したら水を補給(通常4～8日間隔)

*3 重症: 第1、2葉葉身基部が白化し、異常抽出・萎凋した苗及び枯死した苗 軽症: 第2葉葉身基部が白化しているが、異常抽出・萎凋は認められない苗

$$\text{発病度} = \frac{5 \times \text{重症苗数} + 3 \times \text{軽症苗数}}{5 \times \text{調査苗数}} \times 100 \quad \text{防除価} = \frac{\text{試験区の発病度}}{\text{慣行管理区の発病度}} \times 100$$

ニ) 留意点

- (イ) 本法は、薬剤防除などと組み合わせ総合防除対策の1つとして活用する。
- (ロ) 出芽直後に湛水状態にすると、苗の充実度が若干低下することがある。
- (ハ) 発病がみられた場合でも、湛水状態を保つことで病徴が軽減されることがある。
- (ニ) プール育苗によって発病を回避し外見上は健全苗でも保菌しているおそれがある。